

# 1. ラテンアメリカ基礎知識の話

## 1・2 治安について

年配のある女性から電話があった。「コロンビアを紹介してるTV番組を見ていてん、きれいなところやね〜。あんなところやったら行きたいわ〜。みんな危ない、危ない言うさかいに〜」と息継ぎのないリズムで言われた。

コロンビアだけでなく中南米諸国は「治安が悪い」というレッテルが張られている。別に庇いはしない。現在も中南米と言えば「治安」が問題になるし、現に1990年代前半には、コロンビアは殺人発生率の第1位だった。

### \*出張所のセキュリティ:

天理教コロンビア出張所は現在24時間体制で警備されている。銀行でもなければ、世界的絵画・美術品を展示している博物館や美術館の類でもない。現地の法人においては「天理教コロンビア教会」と登録されているのだが、教会で24時間のセキュリティ対策をしているところは珍しいのではないだろうか。

1980年代後半から1990年代前半、コロンビアのメデジン市やカリ市の麻薬組織、コロンビア革命武装軍(FARC)や民族解放軍(ELN)といったゲリラと政府の抗争、パラミタリー(右翼自警団)も絡みあった時代の方が圧倒的に治安的は悪かったにも関わらず、出張所に警備員はいなかった。なぜ宗教施設に警備員を配置させるに至ったのだろうか?

1999年5月30日午前10時ころ、出張所から南へ1km半のところにあるカトリック教会がゲリラ(FARC)に襲われ、約二百数十名の参拝客が誘拐された。一般に「マリア教会の誘拐事件」としてコロンビアでは知られている。それは「聖域」を敬わず、銃を向けたという点と、後日解放されたが、女性・子供も一緒に誘拐するという点が世間を騒がせたのである。

記録によると、天理教コロンビア出張所においては、当日、奉仕活動である「ひのきしん」が行われており、若者の有志が数十名集まって、掃除や剪定、草刈をしていたのである。

この事件の後、出張所では理事会が開かれ、24時間体制の警備員の配置が決定され、現在に至っている。

### \*世界の危険地帯

世界で危険な区域が赤で塗られた地図がある。アフリカ、中近東、中南米と東アジア地域が赤い。その中で、赤よりも黒赤部分が最もハイリスクな場所、アフガニスタン、シリア、ソマリア、ルワンダ、スーダンなどが黒赤になっていた。そしてコロンビアの南部もその色だったのである。

### \*コロンビアジャイカ支所長さんの話:

2014年7月1日、バングラデシュの首都ダッカでテロがあり、国際協力機構(ジャイカ)の関係者が犠牲となった。その事件の前、6月26日、偶然にも同機構のコロンビア支所長と話をする機会があった。コロンビアでは首都のボゴタやカリブ海のバラネキージャ、ベネズエラとの国境近くのブカラマンガという都市にはジャイカから協力隊員が派遣されている。「所長さん、なぜカリには派遣されないのですか?」と事情を知らない私の質問に所長さんは、「カリは危険地域なので派遣できないですよ」「え? 危険地域? ボゴタやブカラマンガなども危険地域だと思いませんか?」「殺人発生率が違ってますね……」所長さんの言うようにカリは殺人発生率が高いらしく、日本からは派遣できないということだった。調べてみると<sup>(1)</sup>2013年の殺人発生率はカリ市84.67、ボゴタは16.41だった。

現実、1990年ころにはコロンビアは最も殺人発生率が高かったが、この二十数年で事情が変わってきた。国別でいえば、

2001年くらいまで連続して殺人発生率の第1位だったが、2013年以降、コロンビア国全体の殺人発生率は世界で10位圏外である。反対に中米の人口が少ない国、ホンジュラス、サルバドル、グアテマラなどが多くなってきた。これも少々数字のマジックで、殺人総数÷10万人という割合なので、少し犯罪が増えると上位にランクされるわけである。



図: 日本国外務省: <https://www.anzen.mofa.go.jp/>

### \*世界の危険な都市:

都市になると少々事情が変わる。ある調査によれば、世界で最も危険な50都市のうちの約80%以上が中南米の都市だそう。トップテンの9都市は中南米、残りの1つは南アフリカのケープ・タウン市。カリ市も10位で、日本人移民の歴史がある隣のパルミラ市はなんと8位になっている。

2015年の資料<sup>(2)</sup>によると50都市のうちブラジルが21都市、ベネズエラが8都市、メキシコが5都市、コロンビアが3都市、ホンジュラスが2都市、エルサルバドル、グアテマラ、ジャマイカが1都市ずつ。その他の地域では、南アフリカが4都市、アフリカが4都市となっているのだった。50都市中43都市が中南米なのである。<sup>(3)</sup>

特にブラジルの都市の治安が年々悪くなってきており、2011年には50都市中14都市がランクインだったが、2015年には21都市。しかし、国別になると14位で、コロンビアは11位。危険な国の第1位のホンジュラスの殺人発生率(10万人に対して)が84.29。日本は0.19で211位だそう。

しかし、である。あの相模原殺傷事件の恐ろしさはどうか。この事件の翌日、コロンビアの新聞(EL PAIS)第1面にも掲載された。「障害者は居なくなればいい……」の箇所が黄色いマーカーで引いたように印刷されていた。

### \*治安の正しい理解

世界で安全な国など無いようである。特に最近は「無差別殺人」が増えている。特定な集団や人への殺人に対して無差別のこの場合の意味は「手当たり次第に、片っ端から、次々に」というのが近いだろう。フランスのニースの通り、ダッカのレストランでは、現場のトラックや犯人たちの近くにおられた方々が犠牲者となった。その人たちでなくてははいけなかった、という必然性はない。日本でも世界のどこでも危険性が上がっていることは確かだ。中南米だからとか、日本は安全などというのは考えなおすべきである。

治安については様々な課題が存在している。よく言われるのが「日本人は水と治安は無料だと思っている」ということ。コロンビア出張所の警備費も年々上がっている。コロンビアの治安産業、安全対策に割かれる経済はどのくらいだろうか? 予防接種をしても病気に罹るように、治安というのはいくら予防してもなくならない。けれども最低限の防御は必要である。その戦いが今日も世界中で繰り返されている。

[註]

- (1) <http://finiterrank.github.io/homicidios>、ちなみに本文中のブカラマンガの殺人発生率は41.2。
- (2) ビジネスインサイダー (<https://www.businessinsider.jp/>)。
- (3) 2014年の調査「世界で最も危険な50都市ランキング」(<https://www.businessinsider.jp/>)。